

## IPR(Interproximal Reduction)をダイヤモンドで行う理由



### はじめに

近年アライナー矯正やLOT(Limited Orthodontic Treatment：限局的矯正歯科治療)の普及により、IPRの需要が急速に増えてきている。

しかしながら、従来のIPRに用いる様々なツールの多くは効率的とは言い難い。例えば、ストリップスにおいてはハンドとコントラで用いるタイプがあるが、ハンドは細かなディテールを表現するには最適だが、時間とハンドリングに問題がある。コントラタイプは振動が酷く、患者に不快感を与え、かつ耐久性に難があると感じていた。ディスクタイプは口腔

内組織の外傷リスクが極めて高く使用においては十分な対策が必要である。そこで、最も簡単にIPRができ、短時間で効率よく行えるのがIPR用ダイヤモンドである。だが、一般的に流通されているIPR用ダイヤモンドは先端が太いものが多く作業長が短い物が多い。更にテーパーが大きい事でこれでは通常アライナー矯正で指示されている0.2mm前後のIPR量には適応しにくい。

今回、それらの問題点をふまえて開発されたIPR-01EFを使用してみた。その特徴と使用方法、使用感について記したい。

### IPR-01EFの特長

1. 先端径が0.19mm、テーパーが最小限の極細形状
2. わずかにしなる
3. 叢生部位にも適応
4. 短時間で効率的な削合



医療機器届出番号: 09B1X00006002010  
一般医療機器 一般の名称: 歯科用ダイヤモンドバー  
販売名 マニーダイヤモンド

# Clinical Report

## 説明

1. 通常ライナー矯正では1歯0.2mmから0.5mm程度のIPRを行う。先端が0.19mmのこのバーは、余裕を持ってIPR量をコントロールすることが可能である。
2. 一般的なIPR用バーは固い特徴を持ち、切削面が直線になりやすい。このバーは僅かに“しなる”感覚があり、フェザータッチで用いることで隣接面にスムーズに誘導する特長を持つ。
3. 極細形状なので適度な叢生部位にも柔軟に対応。
4. 従来のIPRツールと比較し大幅な時間短縮が可能。同じ削合量であればコントラの1/5、手動では1/10程度に感じる。
5. 適用範囲はIPRを施す症例は全てとは言えないが、基本上下のアンテリアルレシオのバランスを獲得するには多くの症例が適応になると思われる。ただ、a.幼若永久歯 b.エナメル質減形成 c.知覚過敏症例 d.隣接面カリエス e.歯根間距離近接 の場合は適用外となると考えられる。OJ（オーバージェット）の微調整やカップリングの獲得時、ワイヤーによる矯正時にも調整用として。

## 使用感

極細形状の特徴を生かしたこのIPR-01EFは歯面に吸い付くようにフィットしながら研磨を行える印象を持った。削合量が少ないために解剖学的形態を考慮したIPRが可能であった。耐久性においても上下顎の全体的な処置も可能であった。

最後に初期の歯列矯正において、隣接面の僅かなスペース確保が、反応良く歯牙移動を行う上で重要であるという事を記しておく。

## 注意点

使用上、極限まで細くしていることを考慮すると、上下顎の1回での使い切りを想定している。切削感が無くなった場合は躊躇なく交換し、過度な力を加えず使用することを徹底する。

